

令和4年度 ゆめクラブ神奈川 役員研修会

日 時 令和4年7月22(金) 午後1時30分～4時
場 所 かながわ県民センター 304会議室

目 次

1. 次第 1
2. 役員研修会メンバーリスト 2
3. 神奈川県の高齢福祉施策と老人クラブに期待すること・・・ 3
4. 神奈川県老連の役割等について 10

(別紙資料)

- ・地域文化伝承館のチラシ(第1弾)
- ・みんなで元気！～コロナ禍の老人クラブ活動～

【当日の URL (オンライン参加用)】

<https://us06web.zoom.us/j/82007806544?pwd=TzBXN3VsZXY4MDdJSjdVRzRNS0Fadz09>

ミーティング ID: 820 0780 6544

パスコード: 507535

令和4年度 ゆめクラブ神奈川
役員研修会 次第

日 時： 令和4年7月22日(金)13:30～16:00
参加者： 正副理事長、理事、監事、評議員、女性会議ブロック代表
場 所： かながわ県民センター 304 会議室 (※オンライン参加も可)
研修テーマ：“持続可能な老人クラブ活動”について考える

開 会 (13:30)

あいさつ

(公財)神奈川県老人クラブ連合会 理事長 安藤 正義

演題① (13:40)

「神奈川県の高齢福祉施策と老人クラブに期待すること」
神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課 課長 垣中 直也

質疑応答

休憩(14:20～14:30)

演題② (14:30)

神奈川県老人クラブ連合会の役割等について
(公財)神奈川県老人クラブ連合会 事務局長 福地 賢一

質疑応答

閉 会 (16:00)

まとめ

(公財)神奈川県老人クラブ連合会 副理事長 藤塚 捨雄

令和4年度 ゆめクラブ神奈川 役員研修会 メンバーリスト

	市町村	会場参加	オンライン参加
1	横須賀市	加藤春樹、小澤アヤ子	
2	平塚市	井上雄允	
3	鎌倉市		
4	藤沢市	山田耕嗣、大野貞彦、奥田吉昭、佐久間操、太田淳子	
5	小田原市	山口 繁、平井良一、宮本多喜子	
6	茅ヶ崎市	鶴田國夫、中村民世	
7	逗子市		
8	相模原市	安藤正義、石黒雄彦、板倉忠臣、畠山秀美、稲田睿子	
9	三浦市	川松賢治、下村美知子	
10	秦野市	菊地繁雄、小宮 進	
11	厚木市	荻山清治、山崎喜代子	
12	大和市	菊池信良、太田恵子	
13	伊勢原市	森 武	
14	海老名市	佐藤孝男	
15	座間市	藤塚捨雄	関 伴治
16	南足柄市	鈴木郁男、小川榮子	玉川義弘
17	綾瀬市	相崎行男	
18	愛川町		
19	清川村		木村政人、加藤千枝
20	葉山町	山崎時彦	
21	寒川町	中間鐵郎	
22	大磯町		
23	二宮町		
24	中井町	笹崎 剛	
25	大井町		井上捷三、西出輝好
26	松田町	吉田信男	
27	山北町	矢吹 浩	
28	開成町	小川周作	
29	箱根町	福住正巳	
30	真鶴町	中村多美枝	
31	湯河原町	市原尚武、川口勝文	

参加者合計： 48人（会場： 42人、オンライン：6人）

【演題資料1】

神奈川県の高齢福祉施策と老人クラブに期待すること

神奈川県福祉子どもみらい局高齢福祉課

課長 垣中 直也

神奈川県の高齢福祉施策と 老人クラブに期待すること

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課
課長 垣中 直也

Kanagawa Prefectural Government

神奈川県の状況

- ・ 県民のおよそ **4人** に1人が65歳以上の高齢者

	総人口	年少人口 (0歳から14歳)	生産年齢人口 (15歳から64歳)	老年人口 (65歳以上)
神奈川県	9,236,337人	1,082,584人 (12.0%)	5,627,503人 (62.4%)	2,312,173人 (25.6%)
全国	126,068千人	14,983千人 (11.9%)	75,033千人 (59.5%)	36,051千人 (28.6%)

- ・ 2040年には、65歳以上の人口は、総人口の33.6%に
- ・ 人生100歳時代 生涯にわたり輝き続けることができる「いのち輝く人生100歳時代」の実現を目指す



高齢者が自ら地域支え合いの担い手として、活躍する社会
地域に根ざした「老人クラブ」の役割が重要！

Kanagawa Prefectural Government

かながわ高齢者保健福祉計画

基本目標

「高齢者が **安心して、元気に、いきいきと暮らせる** 社会づくり」の実現

4つの大きな柱

I **安心して元気に暮らせる社会づくり**

II **いきいきと暮らすしくみづくり**

III 介護保険サービス等の適切な提供とその基盤づくり

IV 市町村が行う取組の支援施策及び目標値

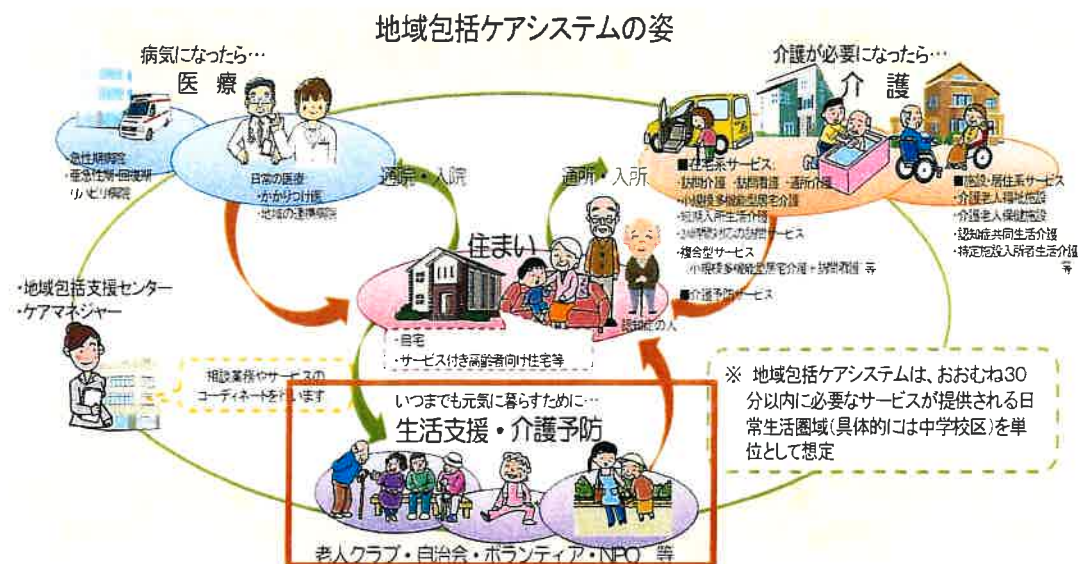
・第8期 2021年(令和3)年度～2023年(令和5)年度

令和3年改定のポイント

- (1) 地域共生社会の実現
- (2) 認知症とともに生きる社会づくり
- (3) ロボット・ICTの導入促進による介護現場の革新
- (4) 災害や感染症に対する対応力の強化

計画 I 安心して元気に暮らせる社会づくり

地域包括ケアシステム の深化・推進



多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要!

計画Ⅰ 安心して元気に暮らせる社会づくり

➤ 安全・安心な地域づくり

昭和36年度 神奈川県老人クラブ連絡協議会設立総会
昭和47年度 老人クラブ友愛チーム事業の開始
昭和59年度 全国に先駆け「社会奉仕の日」に設定し、
一斉奉仕活動を実施

友愛チーム事業

一人暮らしの高齢者を支える活動を全県・約2,400チーム
で実施



©2020 菊地信夫 大和市花みずき友愛チーム
Kanagawa Prefectural Government 「買い物困難者へ野菜を届けよう」



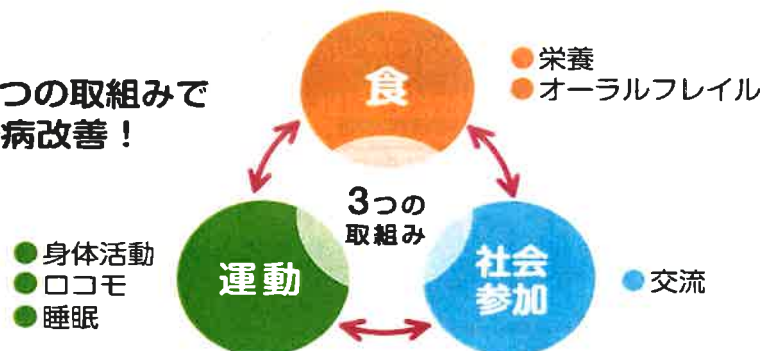
寒川町小谷パールクラブ
移送支援

計画Ⅱ いきいきと暮らすしくみづくり

➤ 未病改善



3つの取組みで
未病改善！



計画Ⅱ いきいきと暮らすしくみづくり

- 社会参画の推進
→「老人クラブ活動の推進」

老人クラブの活動目的

- (1) 仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに、
- (2) その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組み
- (3) 明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的とします。（全老連HPより）

県と県老連のかかわり・老人クラブへの支援

- 老人クラブ活動等事業実施要綱
- 老人クラブ等事業運営要綱



- 県から老人クラブへの補助について
 - (1) 県老連への団体補助（友愛チームへの補助を含む）
 - (2) 単位老人クラブ・市町村老連事業への補助（市町村経由）
- 県から県老連への委託事業について
 - ・ 高齢者社会参画・生きがいづくり支援事業の委託（ゆめクラブ大学・担い手養成研修の実施など）

老人クラブに期待すること・それぞれの役割

老人クラブへの支援・運営に関するアンケート
(令和3年度実施)

▶ 今後最も力を入れたいこと

1位 地域支え合い・助け合い活動

2位 健康づくり・介護予防活動

▶ 老人クラブ⇒県に期待することは？

▶ 単位老人クラブ・市町村老連・県老連

▶ 県・市町村 それぞれの役割

令和4年度 **新** 高齢者居場所づくり等継続支援事業

新型コロナウイルス感染拡大、物価高騰等により
活動困難になっている高齢者団体（友愛チームを結成
している老人クラブを含む）に対し、

▶ 協力金の支給

1団体12万円を支給

▶ アドバイザー派遣

主にICTを活用した活動等を支援

ねんりんピックかながわ2022の開催

第34回 全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会

ねんりんピック かながわ2022

神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔

未病改善でスマイル100歳

2022/11/12(土) - 2022/11/15(火)



Kanagawa Prefectural Government

本町地区の争奪大会
伊勢原市立伊勢原中

川崎市老運ダンス
川崎市立東山南

ゆめクラブ相模原
相模原市立相模原南

かかやきクラブ横浜 シニア
（公財）横浜西区スポーツ交流館

2022年
11/12(土)
~14(月)

午前10時~午後5時
14日は午後4時まで

横浜産産ホール 14階ホール
神奈川県立県民ホール
ステーンホール 13日のみ

会場：伊勢原市立伊勢原中
川崎市立東山南
相模原市立相模原南
（公財）横浜西区スポーツ交流館

主催：神奈川県、川崎市、相模原市、横浜市、伊勢原市、相模原市、川崎市、神奈川県立県民ホール、横浜産産ホール、相模原市立相模原南、川崎市立東山南、伊勢原市立伊勢原中、（公財）横浜西区スポーツ交流館

協賛：伊勢原市、川崎市、相模原市、横浜市、伊勢原市、相模原市、川崎市、神奈川県立県民ホール、横浜産産ホール、相模原市立相模原南、川崎市立東山南、伊勢原市立伊勢原中、（公財）横浜西区スポーツ交流館

お問い合わせはこちら
☎046-252-2100

QRコード

会場は文化伝承館について
☞詳しくはこちらをご覧ください

入場無料

地域文化

伝承館

10

御清聴ありがとうございました



かながわキンタロウと
認知症の人と家族を支えるマーク(Nマーク)

Kanagawa Prefectural Government

【演題資料 2】

神奈川県老連の役割等について

神奈川県老人クラブ連合会

事務局長 福地 賢一

令和3年末に各市町村老人クラブ連合会と各ブロックへお願いした
「県老連等の見直し論議」へ寄せられたご意見

設問	①県老連と市町村老連、ブロック、単位クラブの役割の見直し	②後継者の獲得、若手会員の獲得
各市町村老連から寄せられた主なご意見の概要	<p>【県老連と市町村老連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県老連は調整役として、全国、県内の活発な活動事例の調査研究を。 ・課題解決は市町村老連で。 <p>【ブロック事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県ブロック事業は負担。 ・高齢化で移動困難、単位クラブ以外の活動は重荷、縮小すべき。 ・ブロック内連絡協議会は頻繁な会合を行っていない。意見の集約は直接市町村老連へ。 ・市町村でできる事業は市町村で。ブロック事業はメニュー限定でなく、地域の実情に応じた活動に補助を。 ・他のブロックとの交流で馴れ合い防止と新たな発見を。 	<p>【会長の後継者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副会長にもクラブ内の問題、悩みを共有してもらう機会を作る。 ・新任会長研修会に会長以外も参加するが実を結ぶない。 <p>【活動の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ活動をもっと知ってもらう活動が必要。 ・必要性、魅力を感じていない。老人クラブに入るメリットが必要。 ・活動をイベントから日常化、見える化。通りすがりの人の入会増えた。 ・魅力ある組織づくりが恒久のテーマ。会長は大道芸人、楽しさを自ら演出する気概を。 ・高齢者だけでなく若者も共に参加できる、地域全体を網羅した活動へ。 ・例えば、餅つき大会は大衆性と誰でも参加できる。友愛チームと若年層活動チーム。 <p>【会員の勧誘】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口コミの宣伝効果が大。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位クラブ会長の組織、統率、事務のスキルアップ指導が必要。 ・小規模老連は人材不足で人事の円滑な引継困難。 <p>【準会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に参加して下さる60歳以下の皆様には会費無しの準会員になってもらっている。 ・高齢化で、これまで通りの自作自演だけでは、動く駒が無くなります。

令和3年末に各市町村老人クラブ連合会と各ブロックへお願いした
「県老連等の見直し論議」へ寄せられたご意見

設問	③地域の自治会や団体との連携	⑤地域の趣味の集まり/これからの老人クラブのあり方
各市町村老連から寄せられた主なご意見の概要	<p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携の方策を市の担当課と検討できると良い。 ・自治会の中に老人部を作る。 <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの自治会との共催。 ・自治会連合会の中のまちづくり委員会に地区老連の3役が定例会に参加。 ・地域福祉推進委員会やJAグランドゴルフ大会に役員参加 ・公民館の高齢者対象「ふれあい遊学塾」の企画運営に参画 ・自治会のチラシに配布、勧誘回覧配布を依頼している。 ・自治会との共同活動の清掃や美化活動の中で会員募集に繋がっていきます。 ・子供を集め、親子で参加してもらい、話し合いの中で老人クラブの意義を理解してもらおう。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今は自治会の加入率も低迷し、不要の意見もある。 ・自治会と老人クラブがかかわっていないところが多く連携困難。 	<p>【地域を超えて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員以外の参加、地域を超えたグループの参加を認める。 ・地域に縛られる老人クラブ活動の再生は不可能。地域別組織にこだわらない老人クラブへ。 ・趣味を手掛かりに会員確保に繋がります。 ・女性部を中心とした趣味、イベントの考案。 ・地域枠を超え、趣味の会を中心としたサークルを核にまとめる。 <p>【友愛活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友愛活動を基本にし、趣味等はその付随と位置付ける。

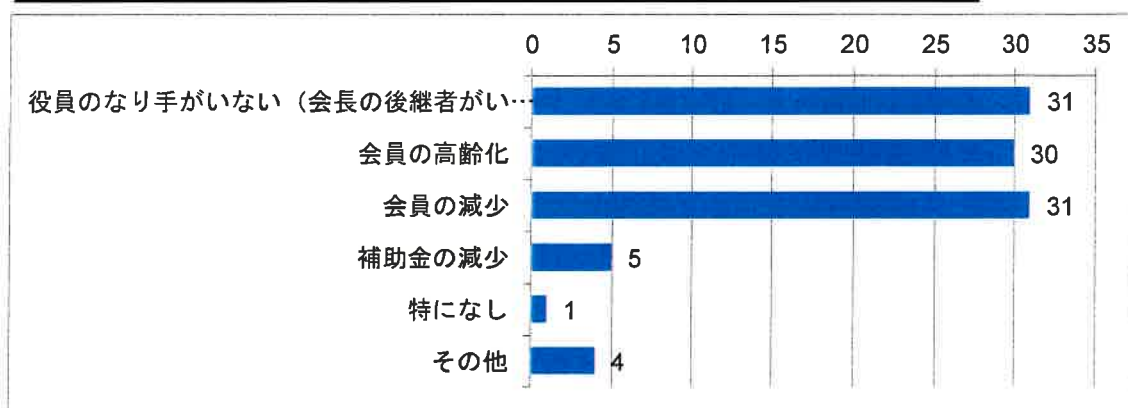
老人クラブの運営等に関する調査（市町村老連用）

実施日：令和3年9月～10月

回答老連数：33

Q1) 近年、県内の「単位クラブ数」の減少が課題となっているところですが、その減少の要因として問題視していることはありますか？（複数選択可）

役員のみ手がない（会長の後継者がいない等）	31	94%
会員の高齢化	30	91%
会員の減少	31	94%
補助金の減少	5	15%
特になし	1	3%
その他	4	12%

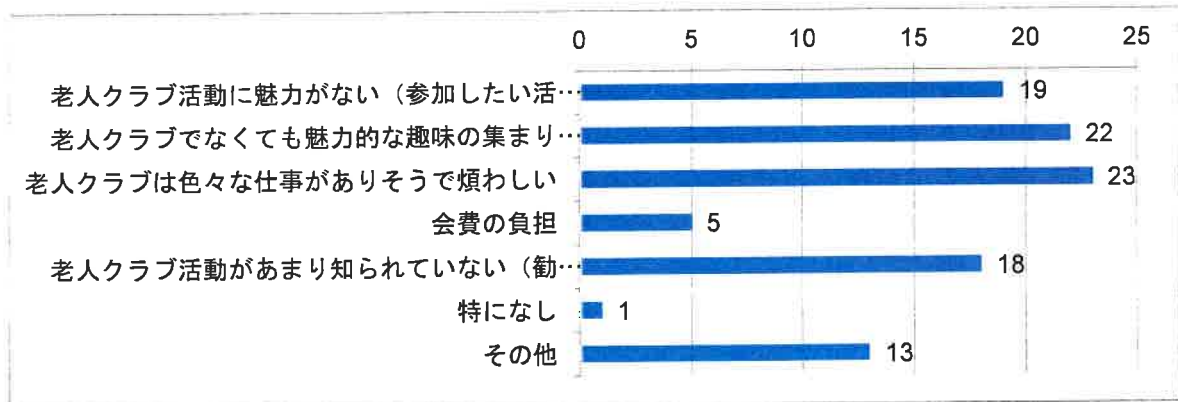


（その他）

- ・今様の社会ニーズに対応しきれてない。アピール不足。
- ・単位クラブ会長の在任が長すぎる（11年、9年、8年、7年、5年と長い方がいる）在任期間が長いので活動がマンネリ化している。
- ・まだ若いから老人会に入らない。
- ・当町において単位クラブ数の減少が起こっていないため問題視されていない。

Q2) 同じく、「会員数」の減少・新規加入者が少ないことも課題となっていますが、その要因として問題視していることはありますか？（複数選択可）

老人クラブ活動に魅力がない（参加したい活動がその地域のクラブにない）	19	58%
老人クラブでなくても魅力的な趣味の集まりが他にある	22	67%
老人クラブは色々な仕事がありそうで煩わしい	23	70%
会費の負担	5	15%
老人クラブ活動があまり知られていない（勧誘・宣伝が足りない）	18	55%
特になし	1	3%
その他	13	39%

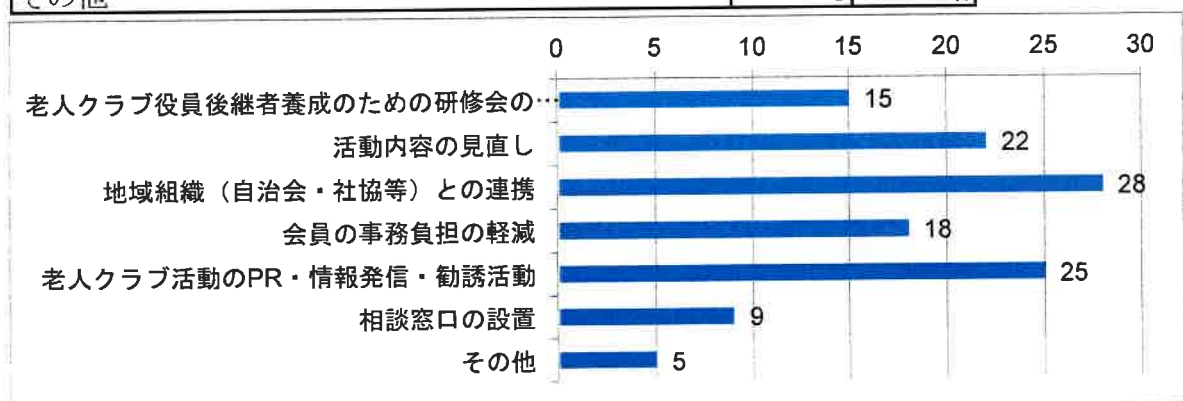


(その他)

- ・自己の趣味は特化するが、クラブ全体の活動に関わりたくない。
- ・インターネットの発達により個人で楽しむようになった。60歳で定年、年金も受給できた時代と違い、いまや70まで働く事が普通になったため
- ・県老連の分担金に会費の75%が納入しなければならないこと。
- ・世代間による行動様式の相違
- ・「老人」という言葉に前向きなイメージが持てないのではないかと
- ・免許返納などで移動手段に苦慮している。
- ・コロナで活動が減少し、加入の魅力を感じなくなった。
- ・最近ではコロナ禍で活動できていない事も要因のひとつ
- ・自主的な趣味活動グループ等で活動している。
- ・老人クラブは「年寄りの集まり」というイメージがあり、まだまだそんな歳ではないという方が多い。
- ・若年層の生活スタイル（就労している）の変化
- ・特にコロナ禍において各種事業ができないため、会員のクラブ離れが顕著である。
- ・年金が65歳以上からの支給のため、働いている人が多いこと。

Q3) 老人クラブ数・会員数減少の打開策として有効だと考えられることについてご回答ください。（複数選択可）

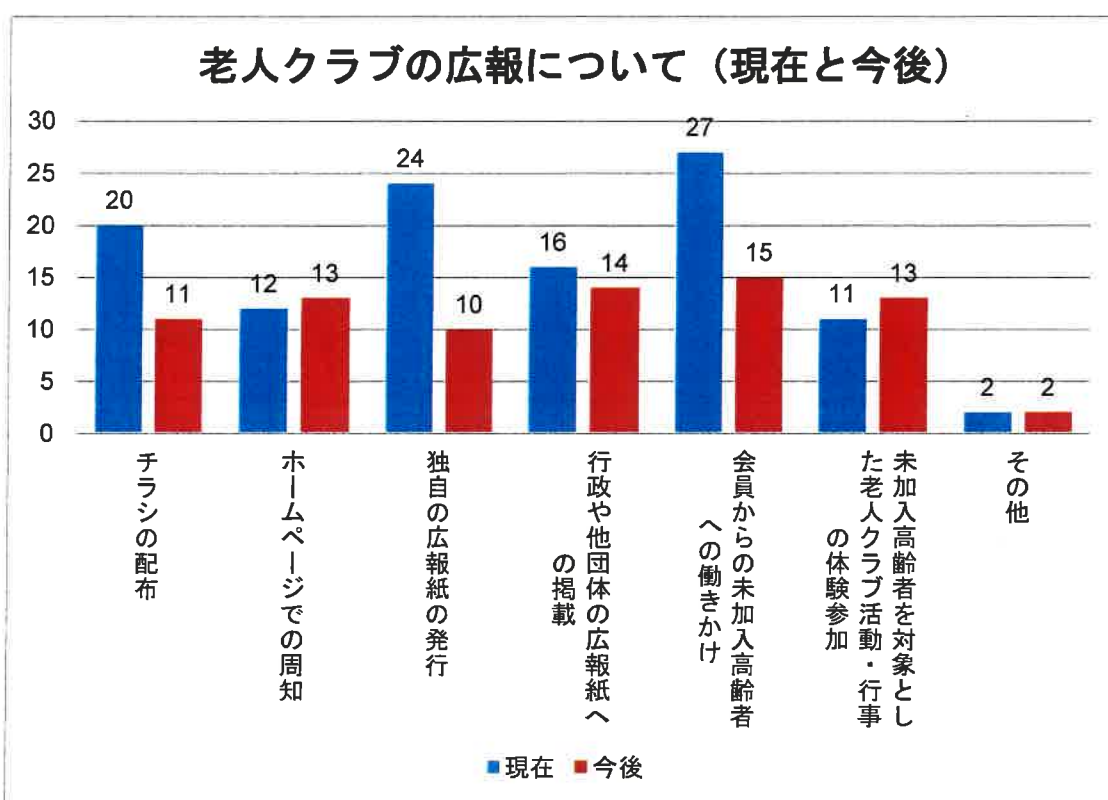
老人クラブ役員後継者養成のための研修会の開催	15	45%
活動内容の見直し	22	67%
地域組織（自治会・社協等）との連携	28	85%
会員の事務負担の軽減	18	55%
老人クラブ活動のPR・情報発信・勧誘活動	25	76%
相談窓口の設置	9	27%
その他	5	15%



(その他)

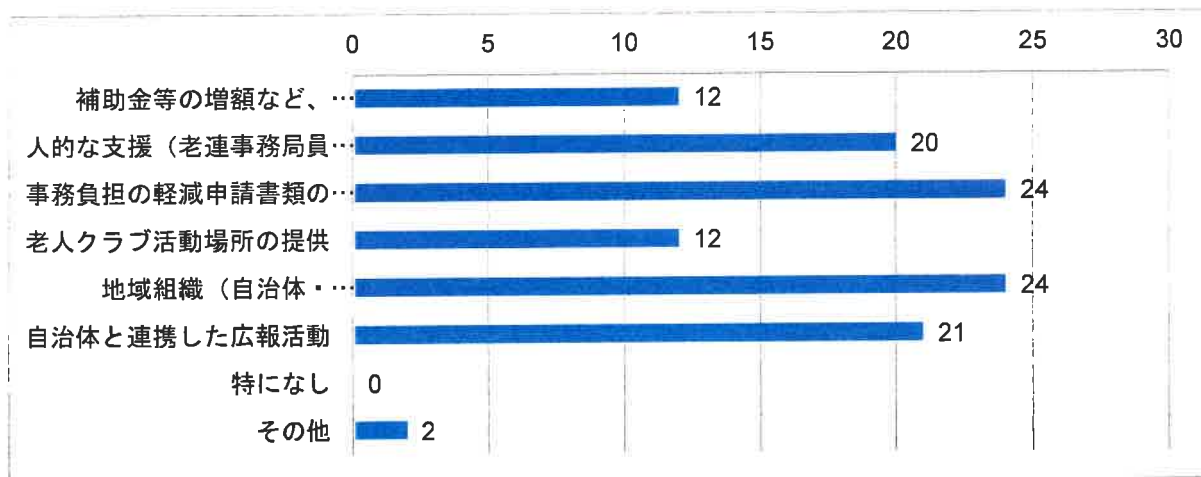
- ・健康マージャン教室、日帰り旅行。
- ・入会にメリットが無ければ入ろうとは思わないのではないか。だとすれば入会することで他では得られないメリットを享受できるファンクラブのようなシステムにでもしなければ会員の増加は見込めない。ただ、そうするとこれまで老人クラブが果たしてきた社会的な意義は薄れてしまうでしょう。
- ・管理者(全老会長等)の顔が見えない。日曜討論などでアピール。
- ・単位クラブが無い地域への対応(個人会員の加入を認める等)
- ・市町村と連携した啓発活動

Q4) 老人クラブの広報について、加入促進や老人クラブの活動紹介等、①現在実施していること、②これから実施する予定があれば教えてください。(複数回答可)



Q5) 老人クラブに対して、今後必要な支援についてご回答ください。(複数回答可)

補助金等の増額など、財政的な支援	12	36%
人的な支援(老連事務局員やアドバイザー派遣等)	20	61%
事務負担の軽減申請書類の簡素化、書式統一等)	24	73%
老人クラブ活動場所の提供	12	36%
地域組織(自治体・社協等)との連携支援	24	73%
自治体と連携した広報活動	21	64%
特になし	0	0%
その他	2	6%



(その他)

- ・ 広報誌「はつこい葉山」年2回発行。タウンニュース。掲示板等。
- ・ 活動時の送迎支援

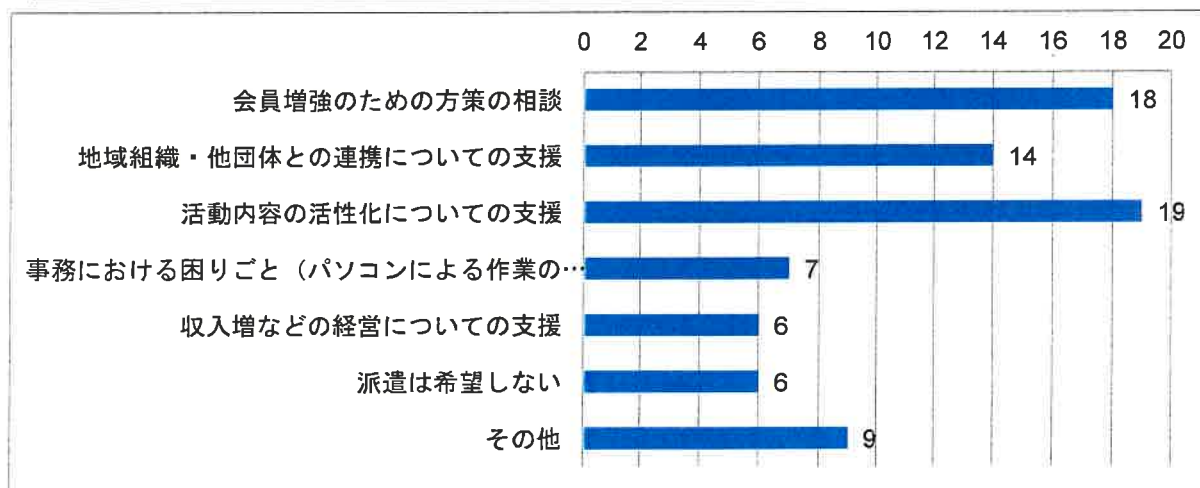
Q6)ひとつ前の設問の「財政的な支援」を選んだ方にお答えいただきます。支援が必要な理由、補助金の使用目的などについて記述してください。

1	今年、湘南ブロックスポーツ交流のつどいグラウンドゴルフ大会補助金が10,000円削減されました。会員は5市3町の試合ですごく楽しみにしています。賞品等を充実したいので、できれば戻してほしいです。
2	補助金+会費だけでは事業の企画が難しい。会費を値上げした場合退会される。
3	高齢者向け活動の用具の購入。例えば、グラウンドゴルフセット・ボッチャのセット等。
4	行政からの補助金増額は歓迎したい。魅力ある事業に繋がります。県老連の助成金は老連事業と重複している、支援助成なら良いのでは。
5	①広報活動費用（広報誌、チラシ、パンフレット）②老連独自活用費（スポーツ、教育講演）※行政の委託事業の執行以外は予算上困難で活動に限界がある。
6	体操、ダンス、生け花、スポーツの講師を呼びたいが資金不足・無料の講師を呼びたい。
7	コロナ対策（消毒、活動人数の分散化）に伴う経費負担増を考えると、中止等になっていく傾向にある。
8	100,000円規模のイベントで、現状打破に期待する。クラブ会員の他、大衆へ訴える大きなイベントが必要。餅つき大会、バーベキュー大会など大衆参加の事業をする。80～90歳の高齢者には、作業の安全を担保できない。ケータリングの活用で、高齢者会員の負担軽減を図る。100,000円以上の予算は、クラブの活性と発展のための必要コストと考える。企業は若い社員に、下働きのようなことはさせない。即会社を辞めてしまうから。 高齢者クラブ会員にも、年に一度、ゲスト待遇の気分を味わってもらいたい。 行政も老人クラブも、今に即応できる事業マニュアルを取り入れてほしい。 健全なクラブ活動は、介護保険料の高騰を抑え、有形無形に貢献している。
9	年金暮らしの方が大半を占めているので、補助金で会を運営して会費を無くせれば会員の増加につながると思うので。

10	移動手段確保のための財政的な支援。単位クラブでの活動は歩いて行けるが、町老連事業では移動の問題が生じる。町老連事業参加の際に利用できるタクシー券配布等の支援があると活動への参加も活発になるのではないかと。
11	・会員の減少、単位クラブの減少に伴い、毎年負担金が減少しています。市からの事務局人件費補助金は定額のため、不足分は市老連負担となることから、補助金の増額を要望しています。

Q7) 県では、老人クラブの運営改善等のためのアドバイザー・コンサルタントの派遣（市町村老連や単位クラブに対し無料で会計事務やパソコン操作に詳しい専門人材等の派遣、相談対応を想定）について検討しています。どのような業務内容において派遣を希望したいですか。（複数回答可）

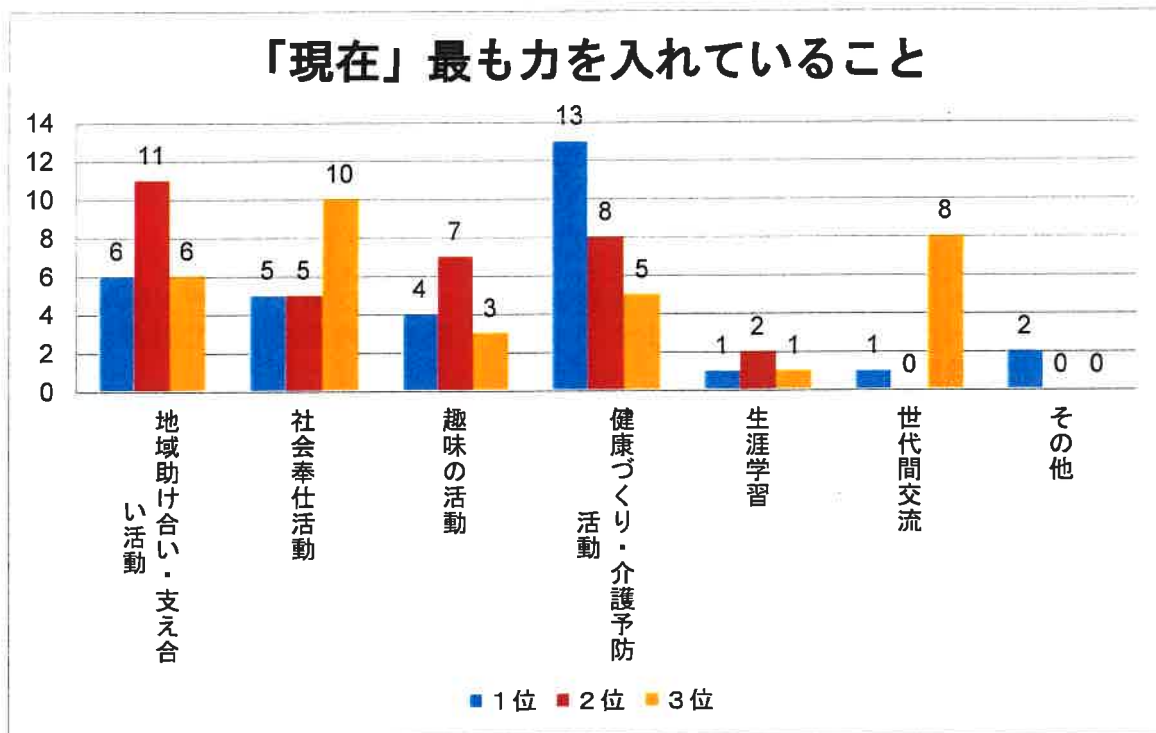
会員増強のための方策の相談	18	55%
地域組織・他団体との連携についての支援	14	42%
活動内容の活性化についての支援	19	58%
事務における困りごと（パソコンによる作業の助言・指導）の解決	7	21%
収入増などの経営についての支援	6	18%
派遣は希望しない	6	18%
その他	9	27%



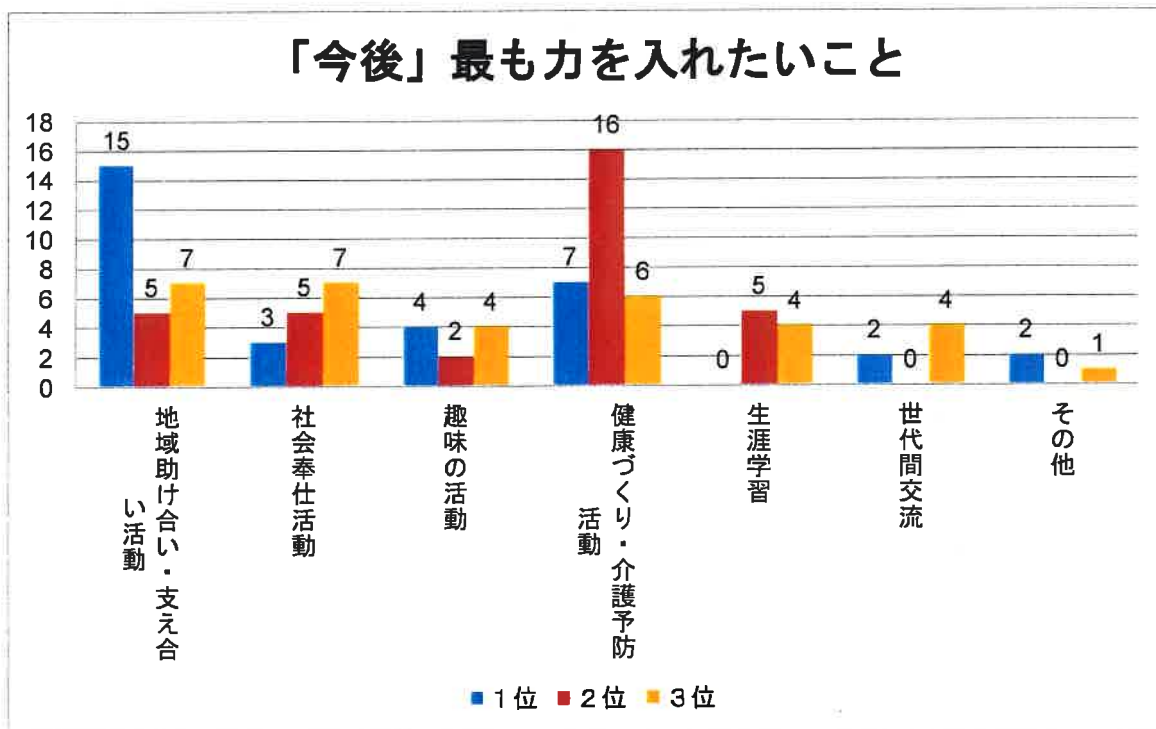
(その他)

- ・ 特になし。県からより所属する自治体との連携や事業補助のほうがよい。
- ・ ホームページの作成
- ・ 派遣の希望有無の判断は難しい。
- ・ それぞれの老連で環境も問題点も違うのでそんなに単純ではない。
- ・ クラブが欲しいのは助言指導でなく、具体的恒常的に「やってくれる」人だと思います。
- ・ 現況では必要性は低い、各単位クラブへの支援なら検討余地はある。
- ・ パソコンができる人材がない。
- ・ ガラ系携帯電話の使用停止に伴う、スマートフォン教室の依頼。
- ・ ホームページ作成の支援

Q8) 老人クラブが、「現在」最も力を入れていることは何ですか？ 1～3位までの順をつけてご回答ください。



Q9) 老人クラブが、「今後」力を入れていきたいことは何ですか？ 1～3位までの順をつけてご回答ください。



Q10) 老人クラブが、県行政や市町村行政・県老連に期待していることは何ですか？ その他、老人クラブに関することでご意見などがあればお聞かせください。

1	<p>行政側は会員数の減少を老人クラブだけの問題と捉えがちです。魅力ある老人クラブ作りに行政側の意識改革が必要では。施設の開放や交通手段などの他、行政が積極的に支援していることを分かりやすくしてほしいです。</p> <p>県老連へは会費の算定基準の見直しをお願いしたい。少ない会員数の単位クラブには現在の算定基準は高額です。県老連助成では市町村老連事業と同じ事業助成がある、市町村老連は予算取りしているので、同じ事業を2回行うことになり負担である。</p>
2	<p>県行政へ、①県老連への事務局職員の人件費助成。②友愛チーム活動に関する基準において、「チーム員6名」を「2名以上とする」など改定を検討していただきたい。</p>
3	<p>高齢者のいきがづくり。老人クラブという名称ばいかがなものか？印象良くない？</p>
4	<p>① 老人クラブの理想の姿について 高齢者が自ら集う心身の「オアシス」であってほしい。 行政の高齢者に対する配慮の無さが、ワクチン接種予約の混乱を招いた。 高齢者がどんなツールに対応できるかを前提にした手法であってほしい。 老人クラブが高齢者社会に果たす役割は大きい。行政窓口に老人クラブ課が無く泣ける。 行政は、日々の事象に対し、前例主義に固執せずフレキシブルに対応してほしい。 コロナ終息祈願祭は、神への祈願に習ったもの、先人たちが安寧の世を願った習慣である。</p> <p>② 県老連役員女性の登用について（女性リーダーの時代） 女性役員登用は、その特性であるネットワークを生かして募集成果をあげられる。 女性の井戸畑会議的ネットワークの広がり、想像以上のものがある。 クラブ会員数は女性が多く、段階的に女性役員を登用し、組織の現状を改善したい。</p> <p>③ 表彰について（副のホストを顕彰し、後継者問題を解決） その1 役員等 ア 市町村老連の副会長・会計・女性部長など。 イ 市町村老連の各部署の部長・副部長など。 ウ 市町村老連の単位クラブの副会長・会計・班長など。 その2 会員以外の協力者 ア 準会員・健康運動指導士・グラウンド・ゴルフ協会・ゲート・ボール協会・文化協会・ 体育協会・舞踊協会・詩吟協会・警察署・消防署・教育委員会・医師看護師・ 商工会・ 人権擁護委員会など。 イ 広報誌スポンサー 県老連6ブロックの広報誌スポンサーを順次推薦顕彰し、一人でも多くの県民の皆様に読んで頂ける広報誌であることを願っています。</p>
5	<p>定例会、研修会開催の場合、単位クラブ会長および各部リーダー参加者は、自宅近くから会場まで往復バスで送迎されます。役員会は各自車、自転車を利用して出席。</p>
6	<p>町内各地区で実施されている地域の通いの場とゆめクラブとの関係が不明確であるので行政として指導してほしい</p>
7	<p>近隣の老人クラブ会員と会員増強方法や魅力ある活動などの紹介を話し合い、改善策を見つけられるような機会が欲しいと考えています（現在はコロナ禍で難しいと思いますが）</p>
8	<p>町行政⇒補助金の確保、地域公共交通の活性化 県老連⇒困った時の相談、他地域のクラブについての情報提供</p>

9	<p>新規会員の加入に課題がある中、役員のなり手不足（人材はいるが役員になってくださる方が少ない）も大きな課題が挙げられる。</p> <p>そうした中、役員の負担軽減のために、事務処理等の負担軽減のための書式の統一や関係書類のデジタル化、メールの活用を進めたと思っているが、特にパソコンを使うことについてはどうしても知識、技術の差が生じてしまうため、統一が図れない。</p>
10	<p>単位クラブ及び会員の減少がいずれ危機的状況となり、各区、地区老連、市老連の運営が困難となることを共有していただき、解決策を検討していただきたい。</p>

ブロック別専門部会・女性会議/割り振り表(令和4年度・5年度)

	ブロック構成老連	部会員数と地域名等				計
		か	な	が	わ	
横須賀・三浦	横須賀市③ 鎌倉市① 逗子市① 三浦市② 葉山町①	3 川松 賢治 斎藤 博 大村 貞雄	2 佐々木 稔 大森 啓巨	2 下村 美知子 山崎 時彦	1 *加藤 春樹	8
湘南	平塚市② 藤沢市③ 茅ヶ崎市① 秦野市② 伊勢原市① 寒川町① 大磯町① 二宮町①	4 森 武 井上 雄允 奥田 吉昭	3 *山田 耕嗣 杉山 善弥 大野 貞彦	4 鶴田 國夫 小宮 進 簗島 肇 高見澤 秀男	1 菊地 繁雄 中間 鐵郎	12
県央	厚木市② 大和市① 海老名市① 座間市② 綾瀬市① 愛川町① 清川村②	3 荻山 清治 菊池 信良 中村 隆幸	3 加藤 千枝 佐藤 孝男 関 伴治	2 *藤塚捨雄 相崎 行男	1 木村 政人 山崎 喜代子	10
西湘	小田原市③ 箱根町② 真鶴町① 湯河原町①	2 平井 良一 高辻 秀樹	2 朝見 健夫 中村 多美枝	2 川口 勝文 福住 正巳	1 *山口繁	7
足柄上	南足柄市③ 中井町① 大井町② 松田町① 山北町① 開成町①	2 西出 輝好 笹崎 剛 *鈴木 郁男	2 吉田 信男 矢吹 浩	2 玉川 善弘 小川 周作	1 井上 捷三 小川 榮子	9
相模原	相模原市③	1 石黒 雄彦	1 畠山 秀美	1 板倉 忠臣		3
監事			1 角川 信雄	1 市原 尚武		2
女性会議 ブロック代表(理事・ 評議員を除く)	藤沢① 鎌倉① 小田原① 茅ヶ崎① 相模原① 大和①	佐久間 操 宮本 多喜子	小澤 アヤ子 稲田 睿子	中村 民世 太田 恵子		6
合計		17	16	16	8	57

*は副理事長 5名
下線は理事(理事長、常務理事を除く) 7名
他は評議員 37名
監事 2名
女性会議は理事と評議員以外のブロック代表 6名
(計) 57名

女性会議(各ブロック代表)	長谷川 スズヨ (平塚市)	寺嶋 幸子 (鎌倉市)	8
	市川 初江 (小田原市)	中村 民世 (茅ヶ崎市)	
	磯崎 浩子 (相模原市)	○山崎 喜代子 (厚木市)	
	太田 恵子 (大和市)	◎小川 榮子 (南足柄市)	

◎は代表で理事
○は副代表で評議員